

いばらき春秋

2023.5.3

江戸時代に活躍した現・高萩市出身の学者、長久保赤水(1717～1801年)を存じだろっか。伊能忠敬より42

年も早く、同じくらい精密な地図を作った人物である▼忠敬は実測により日本地図を作った。一方、赤水は全国の学者たちと交わした手紙や街道を往来する旅人たちの話など膨大な資料を基に1779年、「改正日本輿地路程全図(赤水図)」を完成させた▼忠敬の地図は幕府により機密扱いとされたが、赤水図は明治初期まで約100年間改版を重ね、幅広く利用された。忠敬も測量に携帯し、かの吉田松陰も愛用、ドイツ人医師、シーボルトは海外への紹介に一役買った▼2020年9月、赤水関連資料が国の重要文化財に指定された。高萩市を拠点に30年来活動する長久保赤水顕彰会は「悲願がかなった」と喜んだ。が、コロナ禍と重なった▼講演会や催しは中止。それでも佐川春久会長は「本を作ったり、動画を撮ったり。やることばっかり」とはいっぱいあった」と振り返る▼赤水の業績から歴史、儒学、地理学、天文学と話題が広がり、あっという間に1時間超…。話を聞いてみたい方は土日祝日に高萩市立松岡小の郷土資料室「松岡藩校就将館」に立ち寄ってほしい。佐川会長が詰めている。(細)